

---

◇高橋邦武君

○議長（森元淑雄君） 次に、6番、高橋邦武君の一般質問を許可いたします。高橋邦武君、登壇願います。

（6番 高橋邦武君 登壇）

○6番（高橋邦武君） おはようございます。

通告に基づき、将来の美郷を担う人間の育成について一般質問いたします。

美郷町教育大綱では、教育の基本理念を定めるとともに、学校教育における3つの目指す姿を示しています。人間関係をつくる第一歩となる「あいさつ」、基礎体力を高めるための「走る」、知的活動の土台となる「読書」の3つを重要な内容と捉え、知・徳・体の教育の充実を図り、一人一人の可能性を最大限に伸ばすことを目指しています。

また、上位計画の第3次美郷町総合計画では、次代を担う子供の育成や各種交流の推進などが町の教育の重要な施策となっています。

さらに、人口減少の克服と地方創生の実現に重点を置いた、まち・ひと・しごと創生第2期美郷版総合戦略では、基本目標「魅力ある地域や人をつくる」の中で子供の教育の充実を掲げており、人口減少に歯止めをかける施策の一つとなっています。

将来の美郷を担う人材を育成するためには、第一にキャリア教育の視点を重視したふるさと教育の充実が必要であります。

これまでも、「みさと働き人」の活用や職場体験活動などを通してふるさと教育・キャリア教育を推進しており、このたび学習教材「ふるさと美郷は宝箱」を作成し、その活用を促進することとしていますが、ふるさと教育・キャリア教育の強化に向けてどのような方針で取り組んでいくのかお伺いいたします。

また、昨年12月22日、美郷中学校3年生の総合学習発表会に議員6名が参加しましたが、生徒から動画を使った情報発信に力を入れるべきとの提案がありました。映像化はSNSの時代の要請だと思いますので、例えば町内企業や県内大学を訪問した動画を保存するなど、映像によるアーカイブ化が必要ではないでしょうか。

教育の充実の第二としては、子供の感性・創造力育成や学力向上対策が挙げられます。

一流の芸術を鑑賞する「ほんもの講座」や「自由研究コンテスト」を実施してきていますが、体験活動や様々な人との交流により、表現力やコミュニケーション能力が向上する取組を期待しています。

また、学力・学習状況調査の結果は、県平均に対し、小学生が上回り、中学生が下回っていますが、生徒の課題に対応した取組についてお伺いいたします。

次に、グローバルな視点を持った子供を育成するため、ALTを配置し、英語教育の充実を図るとともに、国際教養大学と交流事業を行っています。

県では、英検3級以上の英語力がある中学校3年生の割合を令和7年度まで60%とする目標にしていますが、英語検定の受験料を町で補助することが必要ではないでしょうか。

さきに述べた美郷中学校3年生総合学習発表会のテーマの一つに国際交流があり、生徒から町をPRする様々な外国語表記のポスター作成やタッチパネル設置に取り組んでいくとの発言がありました。

その前段階として、町とタイ王国との交流事業の経過を取りまとめており、去る1月17日には教育交流協定締結式がありましたが、タイ王国との交流をどのように充実させていくのかお伺いいたします。

最後に、交流の観点から、関係人口の拡大により、新たな人の流れを創出することが求められています。

県では、「秋田の探究型授業」体験や自然体験活動ができる教育留学を県外の小中学生向けに募集し、これまで7市町村で長期留学、短期チャレンジ留学、家族留学を実施しました。参加者のリピート率は高く、移住・定住の促進につながる可能性がありますので、美郷への教育留学を受け入れることについてお伺いいたします。

○議長（森元淑雄君） 答弁を求めます。教育長、登壇願います。

（教育長 福田世喜君 登壇）

○教育長（福田世喜君） ただいまのご質問にお答えいたします。

1つ目の子供の教育の充実に関するご質問のふるさと教育・キャリア教育の充実についてですが、各学校では、ふるさと教育とキャリア教育の教育計画をそれぞれ策定し、取り組んできております。そのような各学校の取組を支援するために、町教育委員会ではふるさと自然や文化に触れる学習活動費を助成する美郷ふるさと活動事業を今年度から行っているところです。

また、令和2年度からは、小学校5年生・6年生と中学生を対象としたふるさと学習教材「ふるさと美郷は宝箱」の作成に取り組んできております。この140ページ余りの本の章立ては、「自然環境」「伝統と文化」「ゆかりの人々」「歴史」「産業」の5つであります。この本は来月に児童生徒に配付される予定ですが、各教科や総合的な学習の時間での活用、家庭学習や夏休み中の自由研究などにおいての活用を大いに期待しているところです。

次に、学校の体験活動などを映像で保存するアーカイブ化についてであります。情報メディア機器の発達により、映像記録保存は様々な可能性が生まれており、今後の調査研究のテーマになるものと認識しております。

次に、児童生徒の表現力やコミュニケーション能力の向上についてであります。各学校ではこのことを重要な課題と捉えており、様々な工夫をして取り組んできているところです。それらを支援する町教育委員会といたしましては、例えばプロの劇団の観劇をする「ほんもの講座」や、各小学校4年生の宿泊体験活動におけるグループごとの課題解決活動を実施しております。また、3小学校の6年生が集まっての「みさとキッズわくわく交流会」や学校に講師を招いてのコミュニケーション教室なども行っているところです。

次に、学力・学習状況調査結果からの課題に対応した取組についてであります。学力の傾向は児童生徒の実態などにより毎年変化する傾向が見られます。そのような中で大切なことは、学力・学習状況調査実施後に速やかに各学校と町教育委員会において結果の分析を行い、課題が見られる分野を明確にし、補充指導などの具体的な手だてを講じることであります。その観点から各学校では、児童生徒の実態に応じた取組を行っております。また、町教育委員会としましては、町校長会や学校訪問において授業改善の指導や助言を行ってきたほか、各学校に大学教授を招聘して授業研究会を開催するなどに取り組んできたところです。

2つ目の国際教育・交流の推進についてですが、最初に、ご質問の中にありました秋田県の英語教育の目標について説明させていただきます。

秋田県では、英検3級相当以上の英語力を指標としており、その達成状況を見るために、県教育委員会独自に中学2年生と3年生全員に試験を実施して英語力の評価をしております。この結果を基に学校では英語検定の資格取得を促しており、希望する生徒が受験している状況です。

このことを踏まえまして、ご質問の英語検定の受験料を町で補助することについてありますが、民間団体による検定試験は、ご承知のように漢字検定や算数・数学検定などもあります。よって、受験料を町で補助する場合にはそれら全体を見た対応が求められますので、難しいところがあると思っております。

なお、町教育委員会では、令和2年度から小学校で必修となりました英語教育が各校で順調に行われるように、英語の授業を専科教員体制にするとともに、外国語指導助手ALTを2名から3名に増やすなどの支援を行っております。また、小学校から中学校への接続がスムーズに行われることなどによって、中学校英語の向上が図られるよう注力してきたところであります。

次に、タイ王国との交流をどのように充実させていくのかについて述べます。

3年間のブランクを経て実施されます来年度の中学生相互訪問交流で目指すところは、まず、前回の令和元年度相互訪問交流のプログラムを基に充実させることだと認識しております。その令和元年度の主なプログラムは、授業体験やホームステイ、お互いの国の文化や伝統を知る諸活動などでありました。

3つ目のご質問の美郷への教育留学の実施についてですが、今回、そのメリットとデメリットを各学校から聞き取り調査を行いました。そこでは、メリットとして、交流することで学校生活などの違いや自分たちのよさに気づくことができるなどが挙げられ、デメリットとしては、大きな行事などでの多忙なときには対応が難しいなどが出されました。このような調査結果から、町教育委員会といたしましては、教育留学についての事務的なことと宿泊や通学に関する負担を学校が担わなくてもよければ、学校にとって教育的意義が大きいものと捉えております。

一方、町外からの子育て世帯は、町内の各こども園で実施しています一時保育事業を利用し、保育留学をすることが可能であります。つまり、町外からのリモートワークなどで美郷町に滞在した家族が、こども園で同じ年齢の子供たちと一緒に遊んだり生活したりして子供を過ごさせ、自然豊かな環境の中で子育てをすることができるのです。

以上のようなことを踏まえまして、美郷町への教育留学・保育留学の受入れにつきましては、関係各課と協議し、研究していく必要があると認識しております。

以上であります。

○議長（森元淑雄君） 再質問ありますか。（「はい」の声あり）高橋邦武君の再質問を許可いたします。

○6番（高橋邦武君） 学力・学習状況調査の関係ですけれども、毎年、まず8月に教育委員会の事務事業点検評価というものが出されまして、その中では、優れた取組が多く、成果が上がっているという事業がまず大半でありまして、特に問題ないと思っておりましたけれども、今回の第2期の美郷版総合戦略の実施状況を見まして、美郷中の全国学力・学習状況調査の結果がずっと県平均を下回っているということを知りました。ただ、この全国調査というのは大都市圏の私立中学校が含まれていませんし、過去問の傾向と対策に授業時間を充てているなど、都道府県ランキングというのはあまり意味がないものと思っております。

それよりも、先日、新聞報道されましたけれども、秋田県立大学の藤田直子教授が指導している3つの能力を磨くことに同感いたしました。1つ目は困ったときにどうするかの問題解決能力、2つ目は自分が知る内容をどう分かりやすく説明するかのプレゼン能力、3つ目は周りの人間とどのように連携して目的を達成するかのコミュニケーション能力、これらは中学生のときか

ら意識して取り組むことが必要になってきていると思います。

福田教育長は今月末で退任されることになりましたが、平成26年4月から9年間にわたり教育行政に大変ご尽力いただきました。特に、キャリア教育の視点を重視したふるさと教育の充実、タイ王国との中学生相互訪問など国際教育・交流の推進、民俗文化財の伝承など芸術・文化活動の強化に手腕を発揮されたと思います。これまでのご功績に対し、感謝と敬意を表するものであります。

教育長には、9年間の教育行政を振り返り、よい点をさらに伸ばすべきもの、課題を克服すべきもの、新たに取り組むべきものについてご所見をお伺いいたします。

○議長（森元淑雄君） 答弁を求めます。教育長、自席でお願いします。

○教育長（福田世喜君） ただいまの再質問にお答えいたします。

最初に、中学生の学力というお話がありましたけれども、学力向上は、1つは直接的に各授業でそれぞれの生徒たちに分かる、理解できる、応用できるというような力をつけていくことがあります。また、テストで評価されるのは見える学力ということになります。そういうことは、1つは直接的な授業改善あるいは取組ということが大事になるわけですが、もう一つは見えにくい学力というのが実はあります。考える力とか先ほどの課題解決能力というのは、トータルとしてテストではなかなかかかれぬ。コミュニケーション能力もそうであります。プレゼン能力も、いろいろ表現されて評価することはできますが、実はなかなかその辺の本当の力を評価するというのは難しい、見えにくい学力であります。

学力はそういう見える学力の部分と見えにくい学力の部分があって、人間力の土台の部分というのは実はなかなか見えにくい学力の中にあるかもしれない、そういう問題意識は持っております。そういう中で、子供たちがこれからの将来を生きていくためには、様々な困難が今まで以上に予想されます。それを乗り越えていくときの総合的な学力、それは見える学力、見えない学力含めてであります。そういうものをやはり十分考えていく必要があるだろうと、その向上ですね。そういう観点で考えたときに、見える学力の部分は授業改善をやっていくわけですが、見えにくい学力というのは実は、あるいは様々な力が考えられるんですね、今議員がご指摘したような。

そういう中で、私が今、そのいろいろな見えにくい学力の中で焦点化して取り上げて取り組んでいるということで期待しているのが、美郷中学校の教育目標、今年度定めた教育目標であります。それはどういう教育目標かというと、「気づき、考え、行動する生徒の育成」というキャッチフレーズです。教育目標は、実は令和2年度、令和3年度は目指す生徒像ということで掲げてき

て、それを格上げして、今年度、学校の教育目標にしました。その前の学校教育目標は「自己の確立に精励する生徒の育成」と非常に大きい概念ですが、ちょっとやはり一般的過ぎるところがあったかもしれない。実は、その「気づき、考え、行動する」というキャッチフレーズは生徒の中でよく話されて根づいている。先生方もよく使われている。ある程度気づくというのは、どういふふうに気づいたかと見える。考えるというのは、自分はこう考えたと表現する中で伝わってくる。行動するのは見えてくる。そういう意味で具体性がある教育目標である。

実はこの気づきというのは、背景には、いわゆる感性の豊かさとか、いろんな知識、技能を知っていることによって気づくということもできる。あるいは、いろんな経験が裏づけされているといふような気づきができる。そういう意味で非常に大事なポイントだと。

考えるはもう申すまでもないことですね。一つ一つのことに、これはどういうよさがあるか、これはどう活用できるか、これはどんな深い意味があるかと、そういうことでいろいろ考えると。ただ、考えることは、一人一人いろいろ考えているわけですが、外に伝わるにはやはり表現しなければいけない。また、その表現して友達同士で話し合うことが実は考えを深めることでは非常に大事で、それができる学校は非常にいい教育の場である。

そして、行動するですね。幾らいいことを考えていても行動に移せなければ、やはりこれからの時代ではなかなかほかの人たちに貢献する力にならない。この行動する力をどう育てるかという、まずは意欲が大事ですね。行動したい、行動するぞという意欲がなければ。その意欲を高めるには、例えば自分はやればできるというような自信がどこかになければ駄目。あるいは、自己管理能力というのがありますが、自分自身がやはり行動してこういうときにこう動くという、そういう力も実は土台としてなければ駄目と。

ですから、「気づき、考え、行動する生徒の育成」の背景には、実はまた幅広くいろんな力の要素が込められているので、キャッチフレーズとしてはそれを掲げて、そういう生徒にたくましく育っていただければ、美郷の将来を担う子供たちの育成に大いに教育的に力になっていくのではないかといふようなことを現在は考えているところであり、そういう点で、これからこの「気づき、考え、行動する」は中学校だけでなく小学校からキャッチフレーズにしてもいいのではないかと。私、来年度のことは述べられませんが、今の所感としてはそのような側面を考えていることをお話しさせていただきます。どうもご質問ありがとうございました。

○議長（森元淑雄君） 再々質問ありますか。（「ありません」の声あり）

これで、高橋邦武君の一般質問を終わります。